

第3学年国語科学習指導案

令和4年6月27日（月）5校時

世田谷区立松沢小学校

第3学年2組

1 単元名	段落とその中心をとらえて読み、かんそうをつたえ合おう
教材名	「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」（光村図書 3年）

2 単元の目標

◎段落相互の関係に着目して読み、段落の中心を見付けながら内容の大体を捉えることができる。

- ・段落や文章構成について理解することができる。（知識・技能 カ）
- ・目的を意識して、段落の中心を見付けることができる。（思考・判断・表現 ウ）
- ・段落の中心を捉えるよさについて考え、そのよさを伝えようとする態度を養う。（主体的な態度）

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・段落の役割について理解している。・全体と中心など情報と情報との関係について理解している。	<ul style="list-style-type: none">・「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けている。	<ul style="list-style-type: none">・進んで段落相互の関係に着目しながら内容を捉え、学習課題に沿って、読んで考えたことを伝え合おうとしている。

4 単元について

（1）これまでの学習経験

2年生までに行った学習では、時間の流れに沿って説明されている文章を学習している。

2年生の1学期の「たんぽぽのちえ」の学習では、時間的順序を表す言葉に着目しながら、叙述と挿絵を結び付けて内容を読み取った。2年生の2学期の「どうぶつ園のじゅうい」でも同様に、獣医のある1日の仕事が時間の経過とともに説明されている文章を学習した。1日の仕事の時間の順序に沿って、仕事とその理由や工夫を正しく読み取るために複数の色を使ってサイドラインを引いた。「馬のおもちゃの作り方」では、「前置き」「材料と道具」「作り方」「楽しみ方」の4つの部分で構成されている文章のまとめを、分かりやすく説明するために、順序を意識して読み取った。2年生の3学期の「おにごっこ」では、「遊び方」「遊ぶわけ」「遊び方のおもしろさ」についてサイドラインを引いた。引いた部分を、自分の言葉で短くまとめる活動を行った。

（2）本教材について

「こまを楽しむ」の単元で、初めて「段落」の意味や働きについて学ぶことになる。第一教材「言葉で遊ぼう」では、段落というものがどのような働きをしているのか確かめる。そして、文章全体が「初め」「中」「終わり」というまとめに分かれていること、「初め」に「問い合わせ」があり、「中」に「問い合わせ」に対する「答え」となる事例が列挙されていること、「終わり」には、全体のまとめが記されていることを、段落相互の関係に着目して捉えさせたい。第二教材「こまを楽しむ」も同様であるから、二つの文章を読むことで、説明

的な文章を正確に読み取るために必要な「段落」に基づいて全体構成をつかむ力を育てていく。

5 児童の実態

文学的な文章の学習「まいごのかぎ」では、場面ごとのできごとや主人公の気持ちなどを整理する活動を行った。表や箇条書き、ウェビングマップなど、自分が書きやすい整理の仕方を選び、全員が場面の内容を表にすることができた。物語文の学習「きつつきの商売」では、物語の続きを考える学習を行い、学級全体が意欲的に取り組んだ。交流することには積極的だが、感想を丁寧に表現したり、友達の考えから自分の考えを広げたり深めたりすることに課題がある。

本単元では、段落ごとに大事なことを整理する活動を通して、段落の中心となる言葉や文章を見付けたり、交流することで自分の考えを広げたり深めたりできることを期待したい。

6 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説より

思考力、判断力、表現力等「C 読むこと（説明的な文章）」領域の構成 （1）指導事項

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
内容の把握	ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。	ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。	ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。
精査・解釈	ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。	ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。	ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。
考え方の形成	オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめるこ
共有	カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。	カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。	カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

■構造と系統【読むこと一説明的な文章】光村図書 小学校国語 学習指導書

段落とその中心を捉える 【言葉で遊ぼう／こまを楽しむ】	◎文章は、「初め」「中」「終わり」などの大きなまとまりに分けられる。	思 C ア
	○「問い合わせ」と「答え」に気を付けると、段落の中心を捉えることができる。	思 C ウ
	○一つの段落には、ひとまとまりの内容が書かれている。	知(1)カ

話題と、例の書かれ方を捉える 【すがたをかえる大豆】	◎筆者の考え方と事例とのつながりを捉え、それぞれの段落の役割を考える。	思 C ア
	◎例の分類の仕方や例を挙げる順序など、筆者の例の示し方の工夫に気をつける。	知(2)イ
	○読書が必要な情報を得るために役立つことに気づく。	知(3)オ
《生活の中で読もう》 ポスターの読み方 【ポスターを読もう】	◎ポスターを見るときには、言葉と写真や絵の関わりに気をつけて、内容を捉える。	思 C オ
	○ポスターが作られた目的や、知らせたい相手を考える。	知(2)イ
説明する文章を読んで、感想を伝え合う 【ありの行列】	◎説明する文章を読むときには、次のことを見つけながら読むとよい。 ・初めて知って驚いたこと・もっと知りたいと思ったこと	思 C オ
	◎読んだ感想を伝え合うときには、自分の考えと同じところや違うところに着目して聞く。	思 C カ

7 研究主題に迫るための手立て（ユニバーサルデザインを意識した指導の工夫）

(1) 授業の流れを掲示する（視覚化）

単元計画や1単位時間の授業の流れを掲示することにより、見通しをもって学習に取り組むことができると考えた。児童自身が学習活動を理解し、主体的に学習できるようにした。

(2) 動画教材・具体物の活用（視覚化）

こまの動画や具体物を本文と照らし合わせて読み、内容を理解させる。また、例で挙げられているこまの楽しみ方が「回る様子」「回し方」のどちらであるのか、考える助けとなるようとする。

(3) 読みの手がかりとなる掲示物（視覚化）

説明文を読み進める際に必要な用語を習得の時間に価値付けして掲示する。また、本単元では、段落、問い合わせ、中心文などについて学習する際、うき松の秘伝書を積極的に活用させることで秘伝書の使い方を身に付けられるようにした。学習したことをまとめたものを掲示して、学習の手がかりになるようにした。

(4) 言語活動（焦点化）

本単元では、教材文を通して、段落の中心を捉えて文章を読むことで内容を理解しやすくなることやより分かりやすい説明の仕方を理解できるようにした。2学期の国語で学習する「すがたをかえる大豆」を読む活動や理科のおもちゃ作りをして友達に紹介する活動、話を聞く時間など、今後の学習活動に生かしていく。

(5) 習得活用を意識した学習計画（焦点化）

一次では、第一教材「言葉で遊ぼう」を通して、説明文の文章構成とその捉え方を理解させる。「段落」や「問い合わせ」と「答え」、「初め」「中」「終わり」に着目して読み進めることで、内容を理解しやすいくことに気付かせる。また、段落の中心となる言葉や文を見付けることで筆者が伝えたいことを捉えられるようにする。

二次では、第二教材「こまを楽しむ」を通して、一次の学習を生かしながら文章構成を理解し、「問い合わせ」に

対する「答え」が第2～第7段落の中心となる言葉や文になることに気付かせる。文章や話の全体に対する中心を捉えるよさについて考え、今後の学習や生活に生かせるようにしたい。

(6) 個に応じたワークシートの工夫（焦点化、個別的な配慮）

二次「こまを楽しむ」では、一次「言葉で遊ぼう」で深めたことを基に、各段落の中心となる言葉や文を捉えさせる。「中」の各段落に書かれていることを整理し、それぞれの文の役割を理解させることで、中心となる言葉や文を見付けさせる。整理するためのワークシートを、6つの事例の写真があるもの、白紙のものと、自由に選択させる。また、事例1つ1つに「問い合わせ」が書かれているヒントカードを用意し、書き出しに困っている児童の助けとなるようにする。

(8) ICTの活用と個の学びが生かされる交流活動の工夫（共有化）

なるほどタイムでグループ交流する際に、自分の考えを整理したワークシートをロイロノート・スクールで共有する。共有したものを基に話し合うことで、考えが伝わりそれぞれの視点が広がったり深まったりする助けとなるようにした。本時では、事例についてくわしく読み、内容を整理したものをロイロノート・スクールに提出させて交流し、自分の考えを見直すことのできる力を養えるようにしたい。

第7時では、6つのこまの楽しみ方を「回し方」と「回る様子」に分類する活動でロイロノート・スクールを活用する。既習学習を確認させながら、こまの写真を操作して「回し方」と「回る様子」に分類し、自分の考えと友達の考えを比べさせる。ロイロノート・スクールの『比較』を活用して、お互いの考えを伝え合い、「終わり」と「中」の関係を捉えさせる。

8 学び方 *番号は、「うさ松の秘伝書」のページ

言語形式 様々な説明的な文章に活用できる読み方	言語内容 該当教材における特有の読み方
①形式段落に分ける。(No.16)	①第一教材：形式段落①～⑧に分かれる。
②文末表現に着目する。(No.3,33)	②「問い合わせ」を見つける。 問い合わせ：「どんなこまがあるのでしょう。」「どんな楽しみ方ができるのでしょう。」
③説明文の構成を理解する。(No.14) 「初め」「中」「終わり」に分ける。(No.17)	③初め (形式段落①) 話題提示・問い合わせ 中 (形式段落②～⑦) 問いに対する答え (事例) 終わり (形式段落⑧) まとめ
④引用する。	④こまの特徴について、本文の文章や言葉を使って、端的に述べる。
⑤各段落の内容を整理する。(No.9)	⑤段落の中心となる言葉や文を見付ける。 こまについて (名前、楽しみ方、つくり) ワークシートに整理し、その中から「大事な文」を見付ける。「大事な文」(段落の中心) は、「問い合わせ」に対

		する「答え」であること。
⑥つなぎ言葉を理解する。(No.30)		⑥「では」の後に「問い合わせ」が続いている。 「また」で2つの問い合わせをつなげている。 「そして」で前の文に続けてこまの様子をくわしくしている。 「いっぽう」は普通のまとまりのつくりの違いを示している。
⑦こそあど言葉は、語、文、段落を指し示すことを理解する。(No.29)		⑦第8段落冒頭の「このように」の「この」が、第2段落から第7段落をまとめている。
⑧事例を分類する。		⑧「終わり」と「中」の関係を捉える。 「中」で書かれているこまの楽しみ方が、「終わり」にある「回る様子」と「回し方」という言葉でまとめられている。
⑨交流し、加筆修正する。(No.44)		⑨友達の考えを聞いて、自分との相違点に気付き、自分の書いた記述を見直す。

9 価値付けの工夫

「教師からの評価による価値付け」「児童同士の交流による価値付け」

教師からの評価による価値付け	机間指導	読みの手がかりを活用して文章構成を捉え、事例の文の役割を考えている記述を称賛する。
	全体共有	段落相互の関係に着目して、中心となる語や文を見付けている発言や記述を称賛する。
	評価	児童の書いた記述や発言から、学習のねらい（付けたい力）に応じた評価を心掛ける。

児童同士の交流による価値付け	記述を見せ、考えを伝え合う	・読みの手がかりを活用して読み取ったことをワークシートにまとめているかについて相互評価、自己評価をする機会とする。
		・着目した表現や構成などの根拠を明確にしながら、自分の考えを伝え合う。

10 学習指導計画（全8時間扱い）

次 一 次 第 一 教 材 「言葉で遊ぼう」（習得）	時	○学習活動	・指導内容	支援（◇）評価（★）
一次 第一 教材 「言葉で遊ぼう」（習得）	1	<p>○これまでの学習経験を思い出し、「分かりやすく説明する方法を学習しよう。」という課題意識をもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;">学習の見通しをもとう。</div> <p>○言葉遊びやこまについて、自分の経験や知っていることを話し合う。</p> <p>○学習の見通しをもつ。 • 教材文を読む。 • 学習計画を立てる。</p>		<p>◇秘伝書⑭を活用し、「説明文」を振り返る。</p>
	2	<p>「言葉で遊ぼう」の文章の組み立てをとらえよう。</p> <p>○「段落」について知り、形式段落に分ける。</p> <p>○「問い合わせ」について知り、どの文が「問い合わせ」になるか考える。</p> <p>○文章がまとめられている段落や様々な言葉遊びについて説明されている段落を見付ける。</p> <p>○「初め」「中」「終わり」の文章構成を捉える。 「初め」 問いや話題提示 「中」 くわしい説明 「終わり」 文章のまとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「段落」という言葉を知り、その意味や働きを理解すること。 ・5段落に分けられること。 ・「問い合わせ」という言葉を知り、その意味や働きを理解すること。 ・「また」のつなぎ言葉の働きを理解する。 ・文章には「まとめ」があり、その意味や働きを理解すること。 ・言葉遊びの例が3つあること。 ・それぞれのまとまりに役割があること。 	<p>◇秘伝書⑯を活用し、「段落」の意味をおさえる。</p> <p>◇秘伝書③を活用し、「問い合わせ」の意味をおさえる。</p> <p>◇秘伝書⑩を活用し、「また」のつなぎ言葉に着目させる。</p> <p>◇「このように」に着目させる。</p> <p>◇秘伝書⑥⑦を活用し、説明文の組み立てについておさえる。</p> <p>★「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述をもとに捉えている。</p>

<p>3</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">だん落の中心となる言葉や文をたしかめよう。</div>	<p>○言葉遊びについて整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名前 ・遊び方（作り方） ・楽しみ方 ・例 <p>○段落の中心となる言葉や文を確かめる。</p> <p>○「言葉で遊ぼう」を読んだ感想をつたえ合う。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・各段落の文が、名前、遊び方（作り方）、楽しみ方、具体例の役割になっていること。 ・「たとえば」のつなぎ言葉の働きを理解すること。 ・「問い合わせ」に対する「答え」になる部分が、各段落の中心となること。 ・内容について思ったこと、文章の書かれ方のよさなどを書くこと。 	<p>◇3種類のワークシートを用意して、自分に合ったものを選べるようにする。</p> <p>◇つまずいている児童には、ヒントカードを用意し書き出せるようにする。</p> <p>◇秘伝書⑩を活用し、「たとえば」のつなぎ言葉に着目させる。</p> <p>◇秘伝書④を活用し、例の役割を捉えさせる。</p> <p>◇「問い合わせ」を確認し、「答え」になる言葉や文に着目させる。</p> <p>◇秘伝書⑨を活用し、中心となる文の意味をおさえる。</p>

**二次
第二教材 「こまを楽しむ」（活用）**

4	<p>「こまを楽しむ」の文章の組み立てをとらえよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○形式段落に分ける。 ○「問い合わせ」と「まとめ」を見付ける。 ○説明されている段落を確かめる。 <p>・8段落に分けられること。 ・「問い合わせ」は文末表現に着目すること。 ・「では」のつなぎ言葉の働きを理解すること。 • こまの例が6種類挙げられていること。 • 第1段落に「問い合わせ」があること。 • 第2～7段落に「答え」があること。 • 第8段落は文章のまとめであること。 • 「初め」「中」「終わり」の構成を捉えること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇「～でしょうか。」に着目させる。 ◇秘伝書⑩を活用し、「では」のつなぎ言葉に着目させる。 ◇「このように」「～である。」に着目させる。 ◇「中」をまとめている文に着目させる。 ◇本文を拡大して掲示し、文章構成が分かるようにする。
5	<p>こまについて書かれていることを整理しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○色がわりごま、鳴りごま、さか立ちごま、たたきごまについて整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・名前 ・楽しみ方 ・つくり <p>・各段落の文に、名前、楽しみ方が書かれていること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇2種類のワークシートを用意して、自分に合ったものを選べるようにする。 ◇つまずいている児童には、ヒントカードを用意し書き出せるようにする。

6 (本時)	<p style="text-align: center;">だん落の中心となる言葉や文を見つけよう。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;"> <p>○曲ごま、ずぐりについて整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名前 ・楽しみ方 ・つくり </td><td style="width: 50%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・各段落の文に、名前、楽しみ方、つくりが書かれていること。 ・「一方」のつなぎ言葉の働きを理解すること。 </td><td style="width: 50%;"> <p>◇ 2種類のワークシートを用意して、自分に合ったものを選べるようにする。</p> <p>◇ つまずいている児童には、ヒントカードを用意し書き出せるようにする。</p> <p>◇ 秘伝書⑩を活用し、「一方」のつなぎ言葉に着目させる。</p> <p>◇ 「問い合わせ」を確認し、「答え」になる言葉や文に着目させる。</p> <p>★ 「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けている。</p> </td></tr> </table>	<p>○曲ごま、ずぐりについて整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名前 ・楽しみ方 ・つくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・各段落の文に、名前、楽しみ方、つくりが書かれていること。 ・「一方」のつなぎ言葉の働きを理解すること。 	<p>◇ 2種類のワークシートを用意して、自分に合ったものを選べるようにする。</p> <p>◇ つまずいている児童には、ヒントカードを用意し書き出せるようにする。</p> <p>◇ 秘伝書⑩を活用し、「一方」のつなぎ言葉に着目させる。</p> <p>◇ 「問い合わせ」を確認し、「答え」になる言葉や文に着目させる。</p> <p>★ 「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けている。</p>
<p>○曲ごま、ずぐりについて整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名前 ・楽しみ方 ・つくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・各段落の文に、名前、楽しみ方、つくりが書かれていること。 ・「一方」のつなぎ言葉の働きを理解すること。 	<p>◇ 2種類のワークシートを用意して、自分に合ったものを選べるようにする。</p> <p>◇ つまずいている児童には、ヒントカードを用意し書き出せるようにする。</p> <p>◇ 秘伝書⑩を活用し、「一方」のつなぎ言葉に着目させる。</p> <p>◇ 「問い合わせ」を確認し、「答え」になる言葉や文に着目させる。</p> <p>★ 「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けている。</p>		
7	<p style="text-align: center;">「中」と「おわり」のつながりを考えよう。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;"> <p>○こまについてまとめたカードを「回る様子」と「回し方」に分類する。 「回る様子」を楽しむ…②③④段落のこま 「回し方」を楽しむ…⑤⑥⑦段落のこま</p> <p>○「終わり」に書かれていることと「中」との関係を考える。</p> </td><td style="width: 50%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「中」で取り上げた6つのこまを、「回る様子」「回し方」という言葉でまとめていることに気付かせること。 </td><td style="width: 50%;"> <p>◇ 具体物で遊ばせたり、動画を見せたりして、「回る様子」を楽しむのか、「回し方」を楽しむのか、叙述と照らし合わせて考えさせる。</p> <p>★ すすんで段落相互の関係に着目しながら内容を捉え、学習課題に沿って自分の考えを伝え合おうとしている。</p> </td></tr> </table>	<p>○こまについてまとめたカードを「回る様子」と「回し方」に分類する。 「回る様子」を楽しむ…②③④段落のこま 「回し方」を楽しむ…⑤⑥⑦段落のこま</p> <p>○「終わり」に書かれていることと「中」との関係を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「中」で取り上げた6つのこまを、「回る様子」「回し方」という言葉でまとめていることに気付かせること。 	<p>◇ 具体物で遊ばせたり、動画を見せたりして、「回る様子」を楽しむのか、「回し方」を楽しむのか、叙述と照らし合わせて考えさせる。</p> <p>★ すすんで段落相互の関係に着目しながら内容を捉え、学習課題に沿って自分の考えを伝え合おうとしている。</p>
<p>○こまについてまとめたカードを「回る様子」と「回し方」に分類する。 「回る様子」を楽しむ…②③④段落のこま 「回し方」を楽しむ…⑤⑥⑦段落のこま</p> <p>○「終わり」に書かれていることと「中」との関係を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「中」で取り上げた6つのこまを、「回る様子」「回し方」という言葉でまとめていることに気付かせること。 	<p>◇ 具体物で遊ばせたり、動画を見せたりして、「回る様子」を楽しむのか、「回し方」を楽しむのか、叙述と照らし合わせて考えさせる。</p> <p>★ すすんで段落相互の関係に着目しながら内容を捉え、学習課題に沿って自分の考えを伝え合おうとしている。</p>		

8	<p>自分が遊んでみたいこまについて感想を書き、友だちとつたえ合おう。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; padding: 5px;">○自分が遊んでみたいこまについて感想を書く。</td><td style="width: 33%; padding: 5px;">・自分が遊んでみたいこまについて理由を書くこと。</td><td style="width: 33%; padding: 5px;">◇掲示物やワークシートから既習の学習を想起させる。</td></tr> <tr> <td>○友達と感想を伝え合う。</td><td>・一人一人の感想に違いがあることに気付くこと。</td><td></td></tr> </table>			○自分が遊んでみたいこまについて感想を書く。	・自分が遊んでみたいこまについて理由を書くこと。	◇掲示物やワークシートから既習の学習を想起させる。	○友達と感想を伝え合う。	・一人一人の感想に違いがあることに気付くこと。	
○自分が遊んでみたいこまについて感想を書く。	・自分が遊んでみたいこまについて理由を書くこと。	◇掲示物やワークシートから既習の学習を想起させる。							
○友達と感想を伝え合う。	・一人一人の感想に違いがあることに気付くこと。								

1.1 本時の指導（6／8時）

(1) 目標 こまの特徴を整理し、段落の中心となる言葉や文を捉える。

(2) 展開

学習活動	○指導内容 ■予想されるつまずき	◇支援（全）…全体（個）…個別 ★評価
1. 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	○学習を振り返り、めあてを確認すること。	◇掲示物をつかって、確認する。（全）
だん落の中心となる言葉や文を見つけよう。		
2. こまについて整理する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">じっくりタイム</div> ・名前 ・楽しみ方 ・つくり ・特徴	○こまの特徴となる文章に線を引き、ワークシートにまとめる こと。 ○各段落の文が、名前、楽しみ方、つくり、特徴などの役割になっていること。 ■線を引かずに、手が止まって いる。	◇前時にまとめたワークシートを見ながら、こまの特徴を押さえる。（全） ◇特徴についてわからない児童には、ヒントカードを渡す。（個）
3. 全体で交流する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">なるほどタイム</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">つけたしタイム</div>	○全体で交流すること。	◇他の児童の意見を聞いて、自分のシートに加筆修正をしていることを価値付ける。（全）
4. 段落の中心となる言葉や文を見付ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">じっくりタイム</div>	○大事だと思う言葉や文を見付けること。 ■中心となる言葉や文を見付けられない。	◇既習事項から、答えとなる文章が段落の中心文となっていることを想起させる。（個） ★「読むこと」において、目的を意識して中心となる語や文を見付けている。

5. グループで交流する。 わいわいタイム	○グループで交流すること。	◇段落の中心となる言葉や文が、問い合わせになっていることを理由づけて説明していることを価値づける。(全)
6. 全体で交流する。 なるほどタイム つけたしタイム	○「問い合わせ」に対する「答え」となる部分が、各段落の中心文となっていること。	◇個人の振り返りの前に、交流を通して、自分の考えが変わったことや新たに気付いたこと、学んだことを書くように伝える。(全)
7. 本時の振り返りをして、次時の学習を確認する。		

1.2 板書計画

段落とその中心をとらえて読み、かんそうをつたえ合おう。

問の文の答えになつて いる文 ◎だん落の中心となる言葉や文の見つけ方	<ul style="list-style-type: none"> ◎こまについて書かれていること ・名前 楽しみ方 つくり とくちよう 	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> 拡大した本文 (曲ごま、ずぐり) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; border-radius: 10px;"> め だん落の中心となる言葉や文を見つけよう。 </div>
---	--	---

こまを楽しむ
安藤 正樹